

平成28年度 事業別予算概要

事業名	21510	国際交流事業費	会計	1	一般会計	基本目標	1	魅力と活力にあふれるまち	根拠計画	市長公約
	課			2	総務費		1	産業・労働		
担当課	内線	2416	項	1	総務管理費	分野	8	海外戦略	実施計画事業	国際交流事業
				目	16		海外戦略推進費	H28実施計画額		27,000 千円
			総	計	画	基本概要	3		海外との交流推進	

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	どうしたいのか(意図)	・様々な分野において海外の都市との市民レベルの交流を促進し、国際的視野を持つ人材の育成を図るとともに、本市の国際化を推進する。 ・新たな都市間交流の推進を図り、各国各都市との関係性を強化し、経済面等への活用を図る。 国際交流団体との連携により、国際問題に対する意識高揚等を促進し、国際社会への貢献を図る。	概要	事業の実施手法(手段)	・海外の都市との交流推進や異文化に接する機会の提供
	対象者数	90,938 人					

2 事業の推移・結果(Do)

H26実績	市民外国語講座の実施(受講者368人)、英語スピーチコンテストの開催(参加者65人)、中国文化観光ウィークin高山の開催(参加者約2,000人)、韓国文化体験講座・コアウィークin高山の開催(参加者約1,600人)、市民海外派遣(参加者62名)、中国雲南省麗江市より研修生1名を受け入れ、シドゥ国際演劇祭へのボランティアスタッフ(1人)の派遣、デンバーからの学生(23人)の受入、デンバーへの訪問団(28人)の派遣、コロラド大学への高山市内在勤研修生(3人)の派遣、中国雲南省より国際交流員1名を受入(海外戦略室にて勤務)、中国語講座の講師、麗江市や雲南省との交流事務、在住中国人の生活相談 等						
	指標名	単位	目標・実績	H25	H26	H27	H28
成果指標	市民外国語講座受講者数	人	目標値	500	500	500	500
	算出根拠等		実績(見込)	397	368	395	
成果指標	市民の国際交流事業などへの年間参加人数	人	目標値	5,000	5,000	10,000	10,000
	算出根拠等		実績(見込)	8,453	4,177	600	
活動指標	派遣事業参加者数	人	目標値	75	75	75	62
	算出根拠等		実績(見込)	74	62	60	
活動指標	協力交流研修員受入数	人	目標値	2	2	2	2
	算出根拠等		実績(見込)	2	1	2	
成果指標	姉妹友好都市等関係者との交流人数(海外都市分)	人	目標値			1,300	1,300
	算出根拠等		実績(見込)	1,220	257	1,000	
活動指標	外国青年国際交流員招致数	人	目標値	1	1	1	1
	算出根拠等		実績(見込)	1	1	1	
補足	・H24年度、25年度は、いずれも麗江市から2人受け入れた。 ・H26年度は、麗江市1人、ウルバンバ郡1人の2人を計画し両都市と調整していたが、ウルバンバ郡からの研修者が派遣されず、麗江市からの1人を受け入れた。						

3 分析・評価(Check)

分析・評価で明らかになった課題	・幅広く市民を対象とした交流事業を展開し、交流人口の増加を図る必要がある。 ・幅広い知識を持った国際社会に対応できる人材を育成するため、実際の研修前の事前学習会内容の充実を図る等、研修機会をより有意義にしていける必要がある。 ・姉妹友好都市間の経済活動への活用等、連携強化による効果を明確にする必要がある。 ・ウルバンバ郡からの研修生を受け入れるための調整を行う必要がある。 ・市民との交流機会をより増加させていくとともに、市の事業へのより一層の活用をしていく必要がある。
-----------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対するH27対応状況	・文化交流イベントの内容充実を図り、交流人口の更なる増加を図る。 ・事業実施前に具体的な海外研修のイメージ確立と学習会充実のため、参加者と有識者(海外戦略顧問、前年度参加者等)との海外の文化風習等に関する対話機会を設けるよう検討する。合わせて、研修後のレポート提出により、研修前に作成する研修計画書との比較による参加者の内面変化で効果を推測する。 ・市民との交流機会を創出していくとともに、市の事業へも積極的に関わってもらい、連携強化によるメリットを明確化する。 ・姉妹友好都市間の交流機会を見出し、交流事業補助制度の活用により、市民の交流機会の増加を図る。 ・外国語講座だけでなく、中国との文化交流イベント時の事業対応等に活用する。	
次年度の実施方針	○維持・改善	関連団体からの協賛等を募り財源を確保し、事業内容を充実させることで、交流人口の増加を図ることを検討する。 派遣の選考基準となる英語スピーチコンテストや公募試験への参加者呼びかけを広く行うとともに、参加生徒の希望や友好都市提携を動機とした派遣先の検討を行う。
	○縮小	幅広い友好都市関係の強化を図るため、他国友好都市からの研修生の受入に向けて調整する。 特定の団体だけでなく、多様な団体等の交流機会の創出により、市民がより理解を深められる事業内容を検討する。 市民とのより一層の交流機会の創出と、市が実施する交流イベント等への積極的活用を図る。
	○維持・改善	団体が主体的な運営体制を取る方向で、飛騨高山国際協会との事務分担について見直す必要がある。 将来の高山市を担う人材の育成という視点からの効果測定を行い、より効果的な取り組みを検討していく必要がある。
	○縮小	研修生の活動が見えるよう情報発信を行う必要がある。 他国友好都市からの受け入れの検討にあたっては、研修生を市が費用負担して受け入れていることから、市民等に対する具体的な効果について明確にする必要がある。交流先の都市数が増えたことから、交流促進事業全体を計画的に推進する必要がある。一部の市民のみの交流とならないよう、市民意識の醸成や交流機会の創出に取り組む必要がある。都市の特性に応じた交流内容を検討する必要がある。(担当課評価に同じ)

コスト面

コスト指標	事業費(人件費を除き、繰越・補正を含む)	H25 決算額	H26 決算額	H27 予算額	H28 予算要求額	
	歳出(千円)	(A)	26,937	20,710	29,600	28,731
	受益者1件当たり(円)	(A/B)	292	226	325	316
	受益者	市民(4月1日現在)	(B)	92,097	91,605	90,938

5 予算編成(Action2)

事業内容	・英語スピーチコンテストや外国語講座、海外の文化紹介イベント等の開催による市民の国際交流の支援 ・姉妹・友好都市への訪問団派遣、及び受入等による交流の推進 ・市民海外派遣事業の実施(アメリカ、フランス、中国) ・中国からの国際交流員、麗江・ウルバンバ郡からの研修生受入	要求のポイント	市制施行80周年記念として海外姉妹友好都市紹介交流イベント補助に係る経費を計上	事業実施の課題	・関係団体、市民と連携して取り組む必要がある。 ・観光・物産・交流において相乗効果が図れるよう取り組む必要がある。
------	---	---------	---	---------	--

事業費(人件費除く)	H27当初予算額	H28予算要求額	増減	財務部査定額	市長査定額	財務部査定の考え方	市長査定の考え方
歳出(千円)	29,600	28,731	△ 869	28,340	28,340	積算内容を精査	財務部査定のとおり
財源内訳							
国庫支出金			0				
県支出金			0				
その他	820	620	△ 200	644	644		
一般財源	28,780	28,111	△ 669	27,696	27,696		